



菊池 実

2 単位
未定
春 火曜-3限,4限

<授業の内容とねらい>

2021年度スタートした新規科目です。編入生（旧カリキュラム）には科目名は「旧約聖書概論Ⅰ」として提供されます。内容としては従来の旧約聖書概論Ⅰを踏襲しつつ、特に新約/キリストの福音との関わりの中で旧約聖書の姿とともに学びます。旧約聖書それ自身が一体的であること、また、旧約聖書と新約性聖書とが一体的であってこれをもって私たちが聖書としている、その事柄を大事な前提とします。主要な点は下記のとおりです。

1. 旧約聖書全体を概観します。概要と歴史的流れ、構成を把握します。
2. 旧約聖書全体を読む「視点」をつかむために、土台となる原語、写本や翻訳の歴史、気候と地理、暦と祭り、文化等を学びます。
3. 旧約聖書の中心的な神学・思想、神観、旧約時代の周辺の異教との違いにも触れて、生ける神が主導する救いの計画、「キリストと世界」（世界観）をとらえます。また、私たちが今日旧約聖書を読む方法とその神学的整理を試みます。
4. 旧約聖書全体の流れと背景をつかみ、概論のⅡへの備えをします。概論Ⅱで学ぶ各書を歴史の文脈に位置づけ、また新約聖書との関わり、有機的一体性の把握に努めます。

<授業テーマと内容>

- 第1週 旧約聖書（OT）の構成（イントロ、OT概要）
- 第2週 旧約聖書の構成（概史、区分、ヘブライ語聖書の構成）
- 第3週 旧約聖書と今日のキリスト者と
- 第4週 旧約聖書の構成（旧約聖書の歴史年表）
- 第5週 旧約聖書の構成（ヘブライ語の形態、特徴、翻訳、写本）
- 第6週 聖書の地の地理
- 第7週 聖書の地の気候、イスラエルの暦と祭りと新約聖書
- 第8週 旧約聖書の世界観（神観、OT時代の異教の神々、神の名）
- 第9週 旧約聖書の世界観（人間観）、旧約聖書と新約聖書をつなぐ神学（契約、贖罪）
- 第10週 旧約聖書と新約聖書をつなぐ神学（贖罪、神の性質）、そして「キリストと世界」

<到達目標>

聖書は極めて歴史的に記されている書です。本講では、①その流れの把握、②聖書全体の背景となる文化、言語、地理、一貫する思想（神学）についての把握、すなわち多角的な聖書への視点を持つことを受講者の到達目標とします。旧約聖書39巻個別の理解（主に概観Ⅱ）は、聖書全体の中に位置づけられる時に深まるものです。固有名詞も3Dの世界の中は生きたものとなります。その歴史と全体像があって旧約各書の学びは深まり、また新約との継続性が明確になるはずです。

<授業方法>

講義

<(*)教科書・参考書>

<成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 10 %

期末レポート (Final Report) 80 %

その他 (Other) 10 %

- ・ 期末レポート（80%）→小試験、宿題、期末の総計の80%として評価します。
- ・ その他（10%）→本講では受講者全員がモーセ五書通読をします。

<準備学習等に必要な時間>

- ・ 教員作成の資料をPDF/WORDでTCUオンライン上にアップします。毎回その復習に時間を割き、また可能な限り予習を行ってください。教科書はありません。授業の集中と復習・予習が大切です。

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

<その他履修上の注意点>

- ・ TA(Teaching Assistant)に大学院生が付きます。宿題や小テスト採点、グループ学修も担当しますので活用してください。
- ・ 「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。

<教員の実務経験>

牧師としての20年間の実務経験から講義を提供しています。



＜授業の内容とねらい＞

旧約聖書の原典言語であるヘブライ語文法の習得を目標とします。ヘブライ語は独特の形の子音文字があり右から左に記す言語です。さらに母音記号と組み合わせて読む必要があります。形態的には単純な言語ながら慣れに時間を要します。スタートに乗り遅れないことが大切です。

クラスはアルファベットから始まり、基礎文法を学ぶと同時に、ヘブライ語聖書の語例と文例を通して、ヘブライ語に慣れていきます。履修者は、各課ごとの新しい単語と各品詞における活用を記憶するだけでなく、その積み重ねと応用の力を養っていく必要があります。聖書原語への期待や喜びは一つ一つの忍耐を伴う積み重ねの結果得られるものです。

テキストは日本語で記された文法書を用います。分かりやすさがある半面、情報の整理が求められます。優先する基本を見落とさないようにしましょう。

クラスの進捗は無理はしません。ただ、意欲を持って学ぶ人たちのためにも、クラス全体一人一人の努力が求められます。ヘブライ語ⅡとⅢは、Ⅰの継続となります。評価、進め方はⅠと同様です。1年を終える時には馴染みのある旧約聖書の多くの聖書箇所をヘブライ語で読むことができるようになります。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イン트로ダクション、第1課 文字

第2週 第1課 母音記号、読み、シェヴァ、ダゲシュ

第3週 第2課 音節とアクセント

第4週 第3－5課 冠詞、代名詞、疑問詞

第5週 第3－5課 冠詞、代名詞、疑問詞

第6週 第6課 前置詞と接続詞

第7週 第6課 前置詞と接続詞

第8週 第7課 名詞

第9週 第7課 名詞

第10週 第8課 形容詞

70分×週2回、計20回（学期）の講義です。クラス全体の習熟度を勘案しながら進めるので、進捗は必ずしも上記のとおりとは限りません。基本的に、各課終了時に小テストを行います。単語、各課の練習問題と良く取り組んで下さい。

＜到達目標＞

①日々目標として、毎回の文法事項を理解する。次の課へ進む時はすでに学んだ原則を応用できるようになること。

②各課の目標として、聖書に用いられた言語としての文法的意味を語感とともに感じる。

③ヘブライ語の語感に慣れ、原典において感じ取る言葉の感覚の幸いを得ること。

＜授業方法＞

講義、グループ学習（ワーク・ディスカッション）

＜(*)教科書・参考書＞

Davidson's introductory Hebrew grammar, Martin,James D., T& Clark, 1993.

*「聖書ヘブライ語」谷川政美監修 古代語研究会編、2009年、サンパウロ。

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 30 %

小テスト (Quizzes) 70 %

日々の着実な学習が期待されています。各課終了毎に小テストを行います。小テスト（期末試験含む）は、テキストから出題されます。オンライン（ハイブリッド含む）授業の期間中は基本的に自宅で取り組む持ち帰りテスト（参照可）のテストです。各回の小テスト配分は70%と大きくなっていますので大事に考えてください。また、出席20回がそのまま20%に反映され、欠席・遅刻・早退はそこから差し引かれます。また、ZOOMにおいても積極的な参加を求めます（10%）。語学は極力向き合って表情、発音の口元が分かるようにして学ぶことが大事です。

＜準備学習等に必要な時間＞

2時間

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

＜その他履修上の注意点＞

- ・クラスで用いる教科書に関して。上記谷川政美著、古代語研究会編の「聖書ヘブライ語」を用います。各自で準備してください。
- ・「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。



須藤 英幸

DP T3
1 単位

未定

春 火曜-2限 金曜-2限

<授業の内容とねらい>

「ギリシア語Ⅰ」は、春学期・秋学期・冬学期を通して学ぶギリシア語文法コースの第一部です。新約聖書を深く理解するためには原典で読解できることが望まれます。新約聖書は、ヘレニズム期に古典ギリシア語が広くヘレニズム世界で使われるようになったコイネー・ギリシア語で書かれています。したがって、新約聖書を原典で読解できるようになるためには、コイネー・ギリシア語の文法的知識が欠かせません。

本授業では、ジェレミー・ダフ著『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』を用いて、アルファベットの習得から動詞の時制までの範囲を学びます。具体的には、毎回授業の初めにギリシア語単語の小テストを行って単語力の強化を図ると共に、毎回出される課題と期末まとめ課題に取り組むことで文法知識の定着を目指します。本コースのねらいは、新約聖書をギリシア語原典で読むことを前提にした、コイネー・ギリシア語文法の獲得であります。同時に、新約聖書のギリシア語テキストに徐々に馴染んでいくことでもあります。

<授業テーマと内容>

第1週 イントロダクション

第2週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第1章 (1)、(2)

第3週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第2章 (1)、(2)

第4週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第2章 (3)、第3章 (1)

第5週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第3章 (2)、(3)

第6週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第4章 (1)、(2)

第7週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第4章 (3)、第5章 (1)

第8週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第5章 (2)、(3)

第9週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第6章 (1)、(2)

第10週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第6章 (3)、(4)

(受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。)

<到達目標>

- ・ギリシア語アルファベットを自由に書いて読むことができるようになる。
- ・ギリシア語テキストを正確に音読することができるようになる。
- ・ギリシア語の名詞・前置詞・形容詞・動詞の基本的な形態を理解する。
- ・約200のギリシア語単語の知識を獲得する。

<授業方法>

講義

<(*)教科書・参考書>

- * 『エレメンツ：新約聖書ギリシア語教本』、ジェレミー・ダフ著、浅野淳博訳、改訂第3版、新教出版社、2020年
- 『改訂新版 新約聖書ギリシア語独習』、玉川直重著、2013年

<成績評価の方法と基準>

小テスト (Quizzes) 20 %

期末試験 (Final Exam) 40 %

その他 (Other) 40 %

(単語テスト20%、課題40%、期末試験40%)

- ・単語テストは、ギリシア語単語の習得を確認するもので、授業中に行われる小テストです。
- ・課題は、授業内容の理解を確認するもので、次の授業が始まるまでに提出します。
- ・期末試験は、授業全体の理解度を確認するもので、主に課題から出題されます。

<準備学習等に必要な時間>

クラス外で毎週約360分の学習時間を確保してください。

<課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

課題の提出後に解答例を提示しますので、各自で自分の誤りを訂正してください。

<その他履修上の注意点>

- ・「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。



＜授業の内容とねらい＞

このクラスでは16世紀の宗教改革に基づくプロテスタント神学の概要と意味を学びます。現代福音主義の立場から、神の一般啓示及び特別啓示、聖書の権威、靈感、無誤性、無謬性、外的及び内的証明等について学びつつ、加えて19世紀以降の新しい神学の流れに注目し、現代のキリスト教会と神学に影響を及ぼした主な神学者の啓示論、聖書論をサーベイとして学びます。「主な宗教改革者達は、聖書の靈感についてどのように教えていたか。」「神の靈感は、聖書に具体的にどのように働いているのか。」「聖書は誤りの無い神の言葉とは、具体的にはどういうことか。」「新旧約聖書66巻はどのようにして決まったのか。」「聖書を権威ある神の言葉とすることは、キリスト教会や個人の信仰にとってどのような意味を持つのか。」「聖書の原本と翻訳本にはどのような違いがあるのか。」「19世紀から始まる聖書批判の背景には何があり、またそれは今日のキリスト教会にどのような影響を及ぼしているか。」といった質問について考察します。このクラスでは、筆記課題や小グループ・ディスカッション等を通して、聖書信仰の大切さを他者に伝える力、また共に働く力を養います。

＜授業テーマと内容＞

- 第1週 「神学とは？神学部とは？」
- 第2週 「神学の必要性和あるべき姿」
- 第3週 「教会史と聖書の靈感」
- 第4週 「聖書の内的証明と外的証明」
- 第5週 「聖書の靈感」
- 第6週 「一般啓示と特別啓示」
- 第7週 「聖書の正典性と無誤性」
- 第8週 「近現代神学の潮流と聖書観」
- 第9週 「まとめ授業」
- 第10週 「最終試験」

＜到達目標＞

- 1) 神学を組織的に学ぶことの必要性をわかりやすく他者に伝えることができるようになること。
- 2) 福音主義の立場から、聖書靈感、無誤性、聖典性をわかりやすく他者に伝えることができるようになること。
- 3) 聖書の大切さを、わかりやすく他者に伝えることができるようになること。

＜授業方法＞

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

キリスト教神学(第1巻)、ミラード・J・エリクソン、いのちのことば社、2003。
 聖書の権威、尾山令仁、日本プロテスタント聖書信仰同盟、新版、1980。
 聖書の権威と無誤性、ジェームズ・モンゴメリー・ボイス、上沼 昌雄訳、いのちのことば社、1984。

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 15 %
 リフレクション (Reflection Papers) 15 %
 小テスト (Quizzes) 15 %
 中間レポート (Midterm Report) 15 %
 期末試験 (Final Exam) 40 %
 リフレクションペーパーは、授業をふまえた上で書いていただきます。授業内のスモールグループで発表し、相互に評価します。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

＜課題(試験やレポート)に対するフィードバック＞

リアクションペーパーは、授業内のスモールグループにおいて発表し、相互に評価します。

＜その他履修上の注意点＞

- ・このクラスは総合神学科の必修科目です。
- ・「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。
- ・この科目は、私の牧師(米国カリフォルニア州、ウィンターズバーク長老教会)としての実務経験を活かして提供します。



徐 有珍

＜授業の内容とねらい＞

キリスト教教育とはなんでしょうか。ある人はキリスト教にとって重要な教義や伝統を伝えることがキリスト教教育であると言えます。しかしもしそうであるなら、教義や伝統を学びたい人がそれらについて書かれた本を図書館で借りて読めば教育は終了となります。キリスト教教育の専門家のロバート・パズミーニョ氏は、キリスト教教育について次のように述べています。「教育とは日々の生活の場面や霊的な場面において、その人の知識、信条、価値、態度、感情、スキル、行動が変化するプロセスである。」つまりキリスト教にとって重要な教義や伝統はそれを知り記憶するだけでなく、その人の中に重大な変化となって現れてはじめてそれが教育となるのです。

キリスト教教育Ⅰではこれらのことを念頭に置きつつ、旧・新約聖書時代から近現代までのキリスト教教育の歴史を振り返ります。またキリスト教教育と教育心理学との関連性を考慮しつつ、自己評価と他者評価、発達や動機付けなどのトピックについての理解を深めます。そしてユダヤ人の教育方法であるハブルータを用いて、現代キリスト教教育が抱えている課題と教会教育について議論を行います。

＜授業テーマと内容＞

- 第1週 キリスト教教育の聖書的基盤
- 第2週 キリスト教教育の歴史と背景
- 第3週 キリスト教教育と神学
- 第4週 キリスト教教育と発達
- 第5週 キリスト教教育の自己と他者評価&動機付け
- 第6週 ＜特講＞アクティブラーニングとは？
- 第7週 ハブルータを用いた神学教育の実践（1）
- 第8週 ハブルータを用いた神学教育の実践（2）
- 第9週 現代社会とキリスト教教育の課題
- 第10週 期末試験

＜到達目標＞

- ① 聖書に基づくキリスト教教育のあり方を実践できるようになること。
- ② 教育対象者の年齢や教育のコンテキストに相応しい教育方法を把握することができるようになること。
- ③ 教育心理学のアプローチを、キリスト教教育の実践において用いることができるようになること。

＜授業方法＞

講義, グループ学習（ワーク・ディスカッション）, 発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

「楽しく学べる教育心理学」桜井茂男著（図書文化社、2017年）

＜成績評価の方法と基準＞

- リフレクション (Reflection Papers) 30 %
- 発表 (Presentations) 30 %
- 期末試験 (Final Exam) 40 %
- ・リフレクション：1~6回の授業に関するリアクションペーパーを提出（400字程x6回）
- ・発表：神学教育に関する小論文提出（800字程x2回）と議論内容の発表
- *出欠席に関するポリシー：無断欠席は1回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

＜その他履修上の注意点＞

- ・このクラスはユースミニストリー副専攻の必修科目です。
- ・「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。



岡村 直樹

春 水曜-5限,6限

<授業の内容とねらい>

このクラスでは、キリスト教の世界観、特に福音的な聖書観に立脚しつつ、神の創造された人間の心について共に学びます。心理学 I では、まず心理学という学問の歴史（ヴィルヘルム・ヴント、イヴァン・パブロフ、ジグムント・フロイト、カール・ユング等）およびその全体像（行動心理学、認知心理学、生理心理学、神経心理学、社会心理学、臨床心理学、教育心理学等）を概観します。その上で、人間の心がどのように成長し、どのように変化していくのかについて、「発達心理学」の視点から学びます。ジャン・ピアジェ、エリク・エリクソン、ローレンス・コールバーグ、キャロル・ギリガンらの発達論を学びつつ、人間としての発達と、キリスト教としての発達を並行的に考察します。また特に思春期の発達に注目しつつ、成長過程で生じる「同一性 (identity)」「同一性の拡散 (identity diffusion)」「反抗期 (rebellious phase)」「同輩圧力 (peer pressure)」といった重要な概念を確認しつつ、ユースミニストリーへの適応について共に考えます。また堀越勝著の「感情のみかた」を読みつつ、自己理解を深めます。

<授業テーマと内容>

- 第1週 心理学とは何か？（理論的アプローチ）
- 第2週 心理学とは何か？（歴史的アプローチ）
- 第3週 情動と行動（1）
- 第4週 情動と行動（2）
- 第5週 感覚と知覚（1）
- 第6週 感覚と知覚（2）
- 第7週 パーソナリティ（1）
- 第8週 パーソナリティ（2）
- 第9週 学習と記憶（1）
- 第10週 学習と記憶（2）

<到達目標>

- ① 講義される心理学のトピックの理解。
- ② 心理学の用語の定義付けができるようになること。
- ③ 広範囲で複雑になりがちな心理学の用語や概念の理解が困難な箇所を把握し、適切に教員に質問できるようになること。
- ④ 各自の理解した事柄を正確な文章で課題において表現できるようになること。

<授業方法>

講義, グループ学習（ワーク・ディスカッション）

<(*)教科書・参考書>

<成績評価の方法と基準>

- リフレクション (Reflection Papers) 40 %
- 発表 (Presentations) 25 %
- 期末試験 (Final Exam) 35 %
 - ・感情のみかた」のリフレクションペーパー提出が、成績の40%となります。
 - ・発表はグループ発表となります。
 - ・期末試験は第10回目のクラス時に実施します。

<準備学習等に必要な時間>

授業前には講義内容に関連する章を読んで下さい。各ダイアッドレポートを仕上げるためには大抵の学生は1-2時間を要します。

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

<その他履修上の注意点>

このクラスはユースミニストリー副専攻の必修科目です。
「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。

<教員の実務経験>

この科目は、教員（岡村）の牧師（米国カリフォルニア州、日系長老教会）としての実務経験を活かして提供します。



＜授業の内容とねらい＞

この授業のねらいは、世界の貧困と開発援助について聖書の観点から考察することである。まず前半部分では、発展途上国における貧困削減のために支援活動を展開するNGO（非政府・非営利組織）の実情と、その代替的な役割を担いつつある社会的起業（企業）について概観する。その中で、特に援助を巡る先進国と途上国の新植民地主義的な関係性について批判的に検証する。後半では、開発援助の課題と今後の可能性について聖書の観点から考える。特に、経済的繁栄、新たな事業を生み出すビジネス（起業家）、貧しい人々のための正義について聖書的な理解を深める。そして、人と社会に真の変革をもたらす福音の力と、キリスト教会の役割について学ぶ。最後に、グローバルに広がる貧困に対するキリスト者による新たな働きの方性について共に議論し、それらをひとりひとりの人生や教会においてどのように適用するのかを考察する。この授業は原則として、事前学習を前提とした「反転授業」のスタイルを採用します。事前資料を批判的に分析した上で、自分なりの意見・質問を持ち寄り、授業内ディスカッションの活性化に貢献することが求められます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 世界の貧困と国際開発① 有害な援助：善意で始まった援助の功罪
第2週 世界の貧困と国際開発② 援助産業と開発NGOの実態
第3週 世界の貧困と国際開発③ 国際開発における「社会的事実」
第4週 世界の貧困と国際開発④ チャリティーとビジネス（ハイチの孤児院）、信憑構造
第5週 起業的な取り組み：貧困の悪循環を打破する雇用創出（ビジネス）の役割
第6週 貧しい人々のための正義：その政治・社会的背景
第7週 事例研究：インド・バングラデシュ（ゲストスピーカー：NGOスタッフ）
第8週 市場と貧しい人々：市場競争に参加できない貧しい人々の現状と課題
第9週 福音の力：人と社会を本質的に変革する福音とは？
第10週 教会、コミュニティ、文化：貧しい人々の包括的な変革に向けての実践

＜到達目標＞

- ・貧困と開発に関連するトピックを批判的且つ聖書的に考察する。
- ・国際協力支援を巡る課題に対しての、キリスト者の責任・役割について理解する。

＜授業方法＞

講義, グループ学習（ワーク・ディスカッション）, 発表（プレゼンテーション）, 反転授業（事前学習前提）

＜(*)教科書・参考書＞

* ロナルド・J・サイダー（著）後藤 敏夫（解説）, 御立英史（翻訳）『聖書の経済学：格差と貧困の時代に求められる公正』あおぞら書房、2021年
Corbett, S., Fikkert, B., 2009. When helping hurts: how to alleviate poverty without hurting the poor-- and yourself. Moody Publishers, Chicago, IL.
Myers, Bryant L 2014 Walking with the poor: principles and practices of transformational development Maryknoll, N.Y.: Orbis Books
Bradley, Anne R. & Lindsley, Art 2014, For the Least of These: A biblical answer for poverty. Zondervan
Miller, Michael Matheson et al. 2012 PovertyCure, United States: Acton Media

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション (Reflection Papers) 10 %
小テスト (Quizzes) 10 %
発表 (Presentations) 20 %
その他 (Other) 60 %
その他：オンラインディスカッションへの参加（授業に関連する問いへの応答を授業開始前までにTeamsに投稿し、お互いにコメントします。今年度はACTS-ES生（留学生）にも同じ内容の授業が別途提供されていますので、Teamsの自動翻訳機能を使って留学生とのやりとりを積極的にすることを奨励します。）

＜準備学習等に必要な時間＞

この授業は事前課題として出された動画や文献資料を十分理解していることを前提として行います。また、扱うテーマに関連した情報を独自にインターネット上でリサーチすることも求められます。課題資料を理解する速度に個人差がありますが、毎週4-5時間が目安となります。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回の授業中の発言・書き込みに対してフィードバックをメール、書き込み掲示板、及び個別面談を通して行います。

＜その他履修上の注意点＞

- 「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。
- 「グローバル・スタディーズIX(国際協力論)」と同時開講科目。



伊藤 明生

2 単位
未定
春 水曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

生きることは解釈することです。聖書を解釈する前に人は、誰もが自らを、また人生を解釈しています。自らを中心に位置付けた世界が私たち個々人が生きる世界に他なりません。私たちは無意識のうちに自らとの関係で物事や人を解釈して理解しています。この無意識のうちに実行している解釈を意識することが重要な課題です。これこそが本科目の意義です。本科目では、聖書を解釈・理解するとは一体どういうことであるか、古代・中世・宗教改革から、シュライエルマッハー、ガダマー、リクール、カール・バルト、読者応答批評・受容理論、記号論・構造主義・ポスト構造主義、フェミニズム神学や解放の神学等の社会批評に至る近代及び近年の聖書解釈の方法論を、その背後にある哲学的、神学的な枠組みを踏まえて考察します。講義に重点を置きつつ、各自が思想家またはテーマを選び授業で研究発表したり、聖書解釈と関連付け考察を行う演習を行ったりします。ポストモダンの今、思想的哲学的考察を抜きに真の意味で聖書を読み、解釈して説き明かすことはできません！

＜授業テーマと内容＞

第1週 聖書解釈とは何か:イントロ:神学的聖書解釈の提唱

第2週 古代・中世の聖書解釈

第3週 宗教改革期の聖書解釈:聖書の明晰性

第4週 シュライエルマッハーの解釈学

第5週 ハンス・ゲオルク・ガダマーの解釈学

第6週 ボール・リクール、カール・バルトの解釈学

第7週 読者応答批評と受容理論

第8週 記号論・構造主義

第9週 ポスト構造主義

第10週 フェミニズム神学、解放の神学(ロティー、ハバマス等):社会批判の解釈学

上記の内容はあくまでも予定であって、学生諸君の希望に応じて変更することもあります。

＜到達目標＞

21世紀の日本に生きる私たちが二千年以上も前に書かれた聖書を読み、解釈して理解するには、実に多くの様々な要素が複雑に絡み合うことを理解し、その上で聖書をより良く読み、理解できるように、自らを整える備えをすること。

＜授業方法＞

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

伊藤明生「聖書の解釈」『聖書神学事典』いのちのことば社, 2010年, 35～54頁。

『聖書読解術』榊原康夫 いのちのことば社, 1970年。

* Anthony C. Thiselton, Hermeneutics: An Introduction

Anthony C. Thiselton, New Horizons in Hermeneutics: the theory and practice of transforming biblical reading

『文学とは何か』テリー・イーグルトン(大橋洋一訳) 岩波書店, 1997年。

* 南野浩則『神のことばを解釈すること 神のことばを人の言語で読む』

宇都宮輝夫『カール・バルト研究: 絶対的逆説を指さす神学』

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 10 %

リフレクション (Reflection Papers) 10 %

期末レポート (Final Report) 40 %

期末試験 (Final Exam) 40 %

解釈に関する理論、解釈学に関連する理論家の著書を一冊選んで取り組んで、授業でプレゼンして、レポートにまとめること(40%)。毎回の授業の終了後にリアクションペーパーを提出すること(10%)。期末試験では、本科目で学んだこと全体を十分に把握できたか確認します(40%)。「授業参加度」は、出席点ではないので、授業に参加・貢献した程度が加味されます(10%)。

＜準備学習等に必要な時間＞

一回の授業のために最低限4時間程度の読書の準備。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

＜その他履修上の注意点＞

・ゼロからの学びではきついで、ぜひ予め、関心を抱いて読書しておいてください！

・「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。



岡村 直樹

2 単位
未定
春 火曜-3限,4限

<授業の内容とねらい>

ミニストリー（diakonea）とは、神と人に仕えることを意味するギリシャ語です。神を知らなくては神に仕えることはできないのと同じように、人を知らなくては人に仕えることはできません。宗教改革者カルヴァンは、「神を知ることなくして、自分を知ることはいけません。自分を知ることなくして、神を知ることはいけません。（Institute 1.1.2-3）」と語りましたが、ミニストリーに関わる者が、自らを霊的に、また心理的に知ることは必要不可欠であると言えます。さらに教会というコンテキストにおける対話について考察し、ケアを主眼においた「対話スキル」を身につけます。一方向的な「お話し」でも、人に影響を与えることはできますが、ケアを必要としている人には、その人特有の必要があり、また「聞いてもらいたい」という思いが強く起こります。そのため、ケアを成立させるには、ケアをする人とされる人が出会い、ケアの目的にかなう、良い関係性が作られることが重要です。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（マタイ11章）という御言葉を念頭に、現代の教会におけるケアについて考えます。

<授業テーマと内容>

- 第1週 ミニストリーの意味
- 第2週 自分の感情を知る
- 第3週 ライフヒストリーを通して自分を知る
- 第4週 親との関係性を通して自分を知る
- 第5週 「私のトリセツ」の作成
- 第6週 自分の対話スタイルを知る
- 第7週 ケアの対話の基礎①
- 第8週 ケアの対話の基礎②
- 第9週 ケアの対話の応用①
- 第10週 ケアの対話の応用②

<到達目標>

- 1) ミニストリー従事者である自分自身を理解し受け入れること。
- 2) ミニストリーの対象者である人間を理解するためのツールを獲得すること。
- 3) 教会における他者理解を深めるための具体的な方策を準備すること。

<授業方法>

講義, 演習, 実技, グループ学習（ワーク・ディスカッション）, 発表(プレゼンテーション)

<(*)教科書・参考書>

- * 堀越勝「感情のみかた」いきいき株式会社出版局、2015年
- * 堀越勝「ケアする人の対話スキルABCD」日本看護協会出版会、2016年

<成績評価の方法と基準>

リフレクション (Reflection Papers) 20 %
小テスト (Quizzes) 20 %
中間レポート (Midterm Report) 20 %
中間試験 (Midtem Exam) 20 %
発表 (Presentations) 20 %
中間レポートの評価のポイントは、正直さ、分かりやすさ、具体性、ユーモアです。期末レポートの評価のポイントは、質問の的確さ、対象者の自己開示の度合い、新たに知った内容の量、有意義な反省点です。

<準備学習等に必要な時間>

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

<その他履修上の注意点>

- ・教科書を購入し、クラスにご持参ください。
- ・「どこでもTCU」の対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。



須藤 英幸

2 単位
未定
春 金曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

「神学・教会特殊研究Ⅴ（宗教改革史）」は、歴史的偉業を成し遂げたルターに焦点を当て、彼のテキストを扱います。ルターによって始められた宗教改革は中世のカトリック的社会構造を根底から変革し、プロテスタント教会と近代市民を生み出しました。この変革の起爆剤は、修道士マルティン・ルターが神学教授としてヴィッテンベルク大学の聖書講義を通してたどり着いた、彼の神学的確信にありました。本特殊研究では、「神の義」をめぐる神学的突破によるルターの神学形成、すなわち、「十字架の神学」が表明される『ハイデンベルク討論』（1518年）から『ローマの信徒への手紙序文』（1522年）へ至る過程を追跡します。本特殊研究では、学生は指定されたテキストの読書範囲を事前に読んで、レスポンス課題を提出します。必要であれば、ディスカッションや発表形式を取り入れます。本特殊研究のねらいは、各自がルターの重要なテキストに関する分析と発表を通して、神学的突破への途上にある彼の声に直接耳を傾け、ルターが捉えた福音の本質を把握することで、宗教改革史におけるルターの福音理解の重要性を見極めることができるようになることです。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション
第2週 ルターとカルヴァン
第3週 ルターの神学的突破
第4週 ルターの十字架の神学
第5週 『ハイデンベルクにおける討論』（1518年）
第6週 『二種の義についての説教』（1519年）
第7週 『死への準備についての説教』（1519年）
第8週 『善い行いについて』（1520年）
第9週 『キリスト者の自由について』（1520年）
第10週 『ローマの信徒への手紙序文』（1522年）（受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

- ・ルターの「神の義」をめぐる神学的突破と十字架の神学を理解する。
- ・ルターが考えた福音の本質を説明することができる。
- ・ルターの福音理解を、自分に与えられたヴィジョンのための有益な知識として発展させる。

＜授業方法＞

講義, 発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

- * 『ルター著作選集』（キリスト教古典叢書）、マルティン・ルター、徳善義和訳、教文館、2012年
- 『宗教改革小史』、K・アッポルド、教文館、2012年
- 『宗教改革の思想』、A・マクグラス、教文館、2000年

＜成績評価の方法と基準＞

（授業参加度 10 %、課題 40 %、期末レポート 50 %）

- ・課題は、指定されたテキスト範囲のレスポンスです。
- ・期末レポートは、読書内容をまとめ、それについて論じるものです。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週約360分の学習時間を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

提出された課題に対して、特に初めのものには、課題の作成方法を指導する目的で各自にアドバイスをします。

＜その他履修上の注意点＞

- ・「どこでもTCU」オの対象科目。正規生以外の参加の可能性もあります。